

# 2018年度 中間決算概要及び通期業績予想

# 2018年度 中間期航空取扱量

	2017年度 中間期 [A]	2018年度 中間期 [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]
<b>航空機発着回数 (万回)</b>	<b>12.7</b>	<b>12.9</b>	<b>0.1</b>	<b>101.0%</b>
国際線	10.0	10.3	0.3	102.9%
国内線	2.8	2.6	△0.2	94.0%
<b>航空旅客数 (万人)</b>	<b>2,054</b>	<b>2,173</b>	<b>119</b>	<b>105.8%</b>
国際線	1,669	1,811	142	108.5%
日本人	682	718	36	105.2%
外国人	784	899	115	114.6%
通過客	203	194	△8	95.8%
国内線	385	362	△23	94.1%
<b>国際航空貨物量 (万 t)</b>	<b>114</b>	<b>110</b>	<b>△3</b>	<b>97.0%</b>
<b>給油量 (万 kl)</b>	<b>224</b>	<b>221</b>	<b>△4</b>	<b>98.4%</b>

- 航空機発着回数は、国際線貨物便、国内線における運休、減便があったものの、アジア方面を中心とした国際線旅客便の新規就航や増便等により前年同期に比べて増加、7期連続で開港以来の最高値を更新。
- 航空旅客数は、国内線において前年を下回ったものの、国際線において旺盛な訪日需要等を背景に外国人旅客が大きく伸長したことから、前年同期に比べて増加、4期連続で開港以来の最高値を更新。
- 国際航空貨物量は、輸出入貨物が好調に推移したものの、仮陸揚貨物が減少したことから、前年同期に比べて減少。

# 2018年度 中間連結決算概要

(単位：億円)

	2017年度 中間期 [A]	2018年度 中間期 [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]
<b>営業収益</b> (外部顧客に対する売上高)	<b>1,131</b>	<b>1,251</b>	<b>119</b>	<b>110.6%</b>
空港運営事業	530	557	26	105.0%
リテール事業	432	522	90	120.8%
施設貸付事業	153	156	3	102.2%
鉄道事業	14	14	0	100.1%
<b>営業利益</b>	<b>250</b>	<b>311</b>	<b>61</b>	<b>124.5%</b>
空港運営事業	54	79	24	145.4%
リテール事業	120	153	32	127.4%
施設貸付事業	73	76	3	104.9%
鉄道事業	3	3	0	102.8%
<b>経常利益</b>	<b>232</b>	<b>303</b>	<b>71</b>	<b>130.6%</b>
<b>親会社株主に帰属する 中間純利益</b>	<b>239</b>	<b>205</b>	<b>△34</b>	<b>85.5%</b>

- 営業収益は「増収」、営業利益は「増益」。
- 空港使用料収入は、国際線貨物便、国内線における運休、減便があったものの、国際線旅客便の新規就航や増便等により航空機発着回数が増加し増収。旅客施設使用料収入も、旺盛な訪日需要等を背景に国際線旅客数が増加し増収。物販・飲食収入、構内営業料収入は、国際線旅客数の増加や前年度下期以降に開業した新店効果等により増収。
- 営業収益、営業利益、経常利益はいずれも民営化以降最高を更新。中間純利益は、前年同期に特別利益に計上した厚生年金基金の代行返上益がなくなり減益となったが、民営化以降第2位（この特殊要因を除けば「増収増益」）。

# 2018年度 通期航空取扱量見通し

	2017年度 実績 [A]	2018年度 修正見通し [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]	(参考) 2018年度 当初見通し
<b>航空機発着回数 (万回)</b>	<b>25.2</b>	<b>25.6</b>	<b>0.3</b>	<b>101.2%</b>	<b>25.6</b>
国際線	19.9	20.3	0.4	102.0%	20.3
国内線	5.4	5.3	△0.1	98.4%	5.4
<b>航空旅客数 (万人)</b>	<b>4,094</b>	<b>4,368</b>	<b>274</b>	<b>106.7%</b>	<b>4,292</b>
国際線	3,348	3,627	279	108.3%	3,542
日本人	1,370	1,425	55	104.0%	1,391
外国人	1,594	1,823	228	114.3%	1,771
通過客	384	379	△4	98.9%	379
国内線	746	740	△6	99.2%	750
<b>国際航空貨物量 (万 t)</b>	<b>228</b>	<b>225</b>	<b>△3</b>	<b>98.7%</b>	<b>237</b>
<b>給油量 (万 kl)</b>	<b>447</b>	<b>436</b>	<b>△10</b>	<b>97.7%</b>	<b>461</b>

- 航空機発着回数は、国際線旅客便で、引き続き旺盛な訪日需要を背景に、アジア方面を中心に新規就航や増便等が見込まれることから前期を上回る見通し。
- 航空旅客数は、国際線で引き続きアジアを中心とした旺盛な訪日需要による外国人旅客が増加することに加え、日本人旅客も好調に推移することから前期を上回る見通し。
- 国際航空貨物量は、輸出入貨物は好調に推移するものの、仮陸揚貨物の減少により前期を下回る見通し。

# 2018年度 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2017年度 実績 [A]	2018年度 修正予想 [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]	(参考) 2018年度 当初予想
<b>営業収益</b> (外部顧客に対する売上高)	<b>2,312</b>	<b>2,484</b>	<b>171</b>	<b>107.4%</b>	<b>2,455</b>
空港運営事業	1,068	1,105	36	103.4%	1,102
リテール事業	911	1,044	132	114.5%	1,021
施設貸付事業	302	305	2	100.8%	301
鉄道事業	29	29	△0	97.2%	29
<b>営業利益</b>	<b>466</b>	<b>515</b>	<b>48</b>	<b>110.5%</b>	<b>495</b>
空港運営事業	67	75	7	110.7%	79
リテール事業	255	297	41	116.3%	282
施設貸付事業	139	138	△1	98.9%	129
鉄道事業	6	6	△0	96.6%	5
<b>経常利益</b>	<b>432</b>	<b>492</b>	<b>59</b>	<b>113.8%</b>	<b>463</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>359</b>	<b>319</b>	<b>△40</b>	<b>88.8%</b>	<b>293</b>

- 営業収益は「増収」、営業利益は「増益」。
- 旺盛な訪日需要を背景に、国際線航空機発着回数が増加し、国際線旅客数も好調に推移すること、新店効果等によるリテール事業の増収等に伴い、営業収益、営業利益、経常利益は民営化以降最高を更新する見通し。営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益についていずれも当初予想を上方修正。
- 当期純利益は、前年度に特別利益に計上した代行返上益がなくなり減益となるが、民営化以降第2位（この特殊要因を除けば「増収増益」）。